

## PART 6

### COLLECTION

In this section we would like to start from the interview with a collector of Andy Warhol's silkscreens, the ultimate in pop art, Hitoshi Tsujimoto. What makes Mr. Tsujimoto's space so attractive is that it is more than just a collection room.

### Case 1

#### POP ART

Top Interview with Mr. HITOSHI TSUJIMOTO

Founder of the Real McCoy's, age 61

## Collecting Andy Warhol's silkscreens

### Enjoy Pop Art as Interior Decor

Portraits of Mao Zedong lined up on the walls of a meeting room filled with the latest audio equipment. It is a silkscreen work by Andy Warhol, the standard bearer of pop art. The owner of this room is Hitoshi Tsujimoto, the founder of The Real McCoys. The works hanging on the wall are just a small part of his collection of pop art.

"I've been collecting pop art overseas since I was in my twenties, which was around the 1980s. So it was quite different from the old days when rich people bought art as a display. I just got them because I thought they were cool or the color would go well with my room. Mr. Tsujimoto has collected about 300 of Andy Warhol's silkscreen works.

"Not only Warhol, but also Lichtenstein, Keith Haring, and other artists that I liked. To put it simply, my view of art is part of interior design. For example, if you see pop art displayed at the front desk of a prestigious luxury hotel, it simply looks cool as interior decoration.

If you compare it to fashion, it would be like a print t-shirt. There is something cool about wearing a rock t-shirt with a neat outfit. I've owned it for more than 30 years now, and its coolness hasn't changed at all, and it doesn't feel old. I guess it's because they are 'genuine', just like vintage pieces. While he loves pop art, Tsujimoto also likes folk art such as old Imari and Japanese art such as Japanese paintings. "I don't like things that are new or old, but things that are genuine and good. I would like to live surrounded by such things.

### Determine the value of things with unwavering belief

Mr. Tsujimoto also explains the appeal of Warhol's silkscreens. "Warhol's silkscreens are somewhere in between one-of-a-kind paintings and mass-produced posters. If I could compare it to fashion, fine art would be haute couture and silkscreens would be limited edition. Among them, there are rare artist's proofs and prints with rare value". Tsujimoto's collection includes not only rare artist's proofs but also some of them are very popular among enthusiasts. However, he does not perceive himself as a collector by any means. "I've acquired Levi's 501XX jeans and Rolex watches as long as I thought they were cool and liked them. The 501XX was not made with the expectation that it would increase in value later. Pop art has a similar aspect for me. Its value in the world may fluctuate, but my sense of value for it never changes. He chooses things based on his own values. This is the essence of Mr. Tsujimoto's aesthetic sense.

### ROBERT LONGO's photorealistic drawings

The impressive art hanging to the right of the entrance to the meeting room is by Robert Longo, an American new painting artist. It is one of his best-known works,

the “Men in the Cities” series, which depicts men and women in suits and dresses with their bodies twisted to the extreme.

### Mr. Tsujimoto Understands Warhol

### WITNESS

Mr. David Benrimon (Founder of David Benrimon Fine Art):

Mr. David Benrimon, the founder of the famous gallery in Manhattan, was once asked by Warhol himself to frame his work in person during the time pop art was started to recognize it widely. We asked about Mr. Tsujimoto's collection.

“Mr. Tsujimoto's collection of Andy Warhol's silkscreens is simply amazing. He has a huge collection of Warhol prints from all periods of his life, which he displays in his room. Mr. Tsujimoto owns prints of Warhol's most iconic series, Cowboys and Indians, Flowers and Mao.” When you look at the photos of his room, these works add color and blend into his space.

We asked Mr. Benrimon what kind of works he would recommend to add to Tsujimoto's collection from a gallerist's point of view. “If we limit the discussion to Andy Warhol, it would be the Marilyn Monroe portfolio from 1967. The Marilyn suite was Warhol's first portfolio and an important example of his pioneering silkscreen practice. These prints represent so many of Warhol's hallmark qualities. They exemplify his obsession with fame and glamour, repetition in the silkscreen process, mass media, and celebrity. Also, these colorful prints are exceptionally installed together”.

David Benrimon Fine Art, A gallery in New York City run by Mr. Benrimon. The gallery is located in the renowned Fuller Building on Madison Avenue in Manhattan, which boasts an Art Deco style architecture. The gallery specializes in modern art, contemporary art, and impressionism, and has a wide variety of masterpieces, including Andy Warhol and Roy Lichtenstein.

## PART6 COLLECTION

このパートでは、まずポップアートの極みアンディ・ウォーホル作品のコレクターを取材することから始めたい。本誌でもたびたびご登場いただく本に史さんである。辻本さんの居る空間が魅力的なのは、ここが華なるコレクションルームではないからだ——



**Case1**  
**POP ART**  
ポップアート  
Top Interview with  
**Mr. HITOSHI TSUJIMOTO**  
辻本に史さん  
(ザ・リアルマッコイズ代表 AGE61)

**アンディ・ウォーホルのシルクスクリーンを蒐集**

ポップアートは、インテリアとして楽しむ  
最新の音響機器が詰め込まれたミッドセンチュリー風のインテリアと、素朴な木製の家具のコントラスト、そしてアンディ・ウォーホルのシルクスクリーンアート。この空間の中心は、やはりアンディ・ウォーホルのシルクスクリーンアートだ。この部屋には、マリリン・モンローのシルクスクリーン、ジャクソン・ポロックの抽象画、そしてアンディ・ウォーホルのシルクスクリーンアートが、壁に掛けられ、床に置かれ、そして天井から吊り下げられている。この部屋は、アンディ・ウォーホルのシルクスクリーンアートのコレクションの中心だ。この部屋には、マリリン・モンローのシルクスクリーン、ジャクソン・ポロックの抽象画、そしてアンディ・ウォーホルのシルクスクリーンアートが、壁に掛けられ、床に置かれ、そして天井から吊り下げられている。この部屋は、アンディ・ウォーホルのシルクスクリーンアートのコレクションの中心だ。

written by Tetsu Takahashi / photographed NAMUJ  
SEP 2023 Hall Mary Magazine 100

[See below for original article](#)



# PART6 COLLECTION

このパートでは、まずポップアートの極みアンディ・ウォーホル作品のコレクターを取材することから始めたい。本誌でもたびたびご登場いただく辻本仁史さんである。辻本さんの居る空間が魅力的なのは、ここが単なるコレクションルームではないからだ——



## Case 1 POP ART

ポップアート

Top Interview with  
Mr. HITOSHI TSUJIMOTO

辻本仁史さん  
(ザ・リアルマッコイズ代表 / AGE61)

## アンディ・ウォーホルの シルクスクリーンを蒐集

ポップアートは  
インテリアとして楽しむ

最新の音響機器が詰め込まれたミートイングルームの壁にズラリと並んだ毛沢東のポトリート。言わずと知れたポップアートの旗手、アンディ・ウォーホルのシルクスクリーン作品だ。この部屋の主は「ザ・リアルマッコイズ」代表の辻本仁史氏。壁にかかっている作品は氏が所有するポップアートのほんの一部だ。

「20代の頃から海外でポップアートの作品を集めていました。80年代頃のことですが、当時はまだそこまで注目されていなかったので比較的買いやすかったです。だから、昔のお金持ちがデイスブレイとしてアートを買っていた感覚とはまったく違います。ただ、カッコいいなとか、この色なら部屋に合うなとか、そんな感覚で手に入れていました」そうして辻本氏の手元に集まってきたアートの総数は数百点近くにのぼり、そのうち約300点がアンディ・ウォーホルのシルクスクリーン作品だという。

「ウォーホルに限らず、リキテンシュタインやキース・ヘリングなどの気に入った作品は随時手に入れていました。僕のアート観って端的に言ってしまうとインテリアなんです。例えば、格式高い高級ホテルのフロントにポップアートが飾られていたりすると単純にインテリアとしてカッコいい。ファッションに例えるとプ



# GOOD STUDIES for DAD'S LIFE



アンディ・ウォーホルのシルクスクリーン作品はオークションなどではセットで販売されることが多い。作者自身がセットでひとつの作品とみなしているのがその大きな理由だ。辻本氏もセットで手に入れているため総数が増えてしまったと言ってもよい。左上が“アーティストプルーフ”と呼ばれる限定部数以外に、作家の権利として保有する一定数の版画の一枚で、有名な1981年の作品「Kimiko」。ポスター裏にメッセージを書いて送ったと言われている。右上が「NORTHWEST COAST MASK」、左下と右下が Cowboys and Indians コレクションの「Geronimo FS II.384」と「Kachina Dolls」だ



アンディ・ウォーホルのシルクスクリーンは「リアルマッコイズ東京店」の店内にも数多く飾られている。左が Cowboys and Indians の「Annie Oakley」と「Teddy Roosevelt」

リントTシャツのようなものですかね。きちんとした着こなしにロックTシャツを合わせてハズすようなカッコよさがある。もう30年以上所有し続けていますが、そのカッコよさはまったく変わらないし古さも感じさせない。それはやはりヴィンテージと同じで、作品が、本物、だからでしょうね」

ポップアートを愛する一方、古伊万里のような民芸品や日本画のような日本美術も好むという辻本氏。「新しければいい、古ければいいというものではなく、本物であり、良いものが好きなんです。そういうものに囲まれて暮らしたいですね」



左がCowboys and Indiansの「MOTHER&CHILD」、真ん中が「Plains Indian Shield」右が「GENERAL CUSTER」、下が「Flowers」。



Robert Longo ● 辻本仁史 / 1960年生まれ。岡山出身。ザ・リアルマニフィスト・インターナショナル代表。カメラ以外にも音響や釣り、クルマ、バイクなどに傾倒。その全てにおいて趣味とは言えないほどの力を入れており、中にはビジネスとして成立しているものもある。



## 入口の右手に飾られる ROBERT LONGO



ミーティングルーム入口の右手にかかっている印象的な絵は、アメリカのニューベインティングアーティスト、ロバート・ロンゴ。彼の代表作であるスーツやワンピースに身を包んだ男女が極端に身体をねじ曲げた姿を描いた『メン・イン・ザ・シティーズ』シリーズだ。

アメリカンアイコンを数多く手がけてきたウォーホルだが、この男の像も多く手がけている。Cowboys and Indiansの「John Wayne」



揺るがない価値観で  
ものの価値を見極める

辻本氏はウォーホルのシルクスクリーンの魅力についてこうも語る。「彼のシルクスクリーンは、一点ものの絵画と大量生産品のポスターの狭間にあるような存在なんです。ファクションに例えるなら、絵画はオートクチュールで、シルクスクリーンは限定品のようなイメージ。その中に校正刷りや作家が自分用にキープしたアーティストブルーフというものが出てくる。そうした数が少ないものには希少価値が付きまします」辻本氏が所有する作品の中には、そうした希少なアーティストブルーフもあるし、マニアに人気が高いものもある。しかし、自身は決してコレクターではないと語る。

「僕はリーバイスの501XXもロレックスの腕時計も、自分がカッコいいと思って気に入ったものがあれば手に入れました。そうして、自然に集まってきたものが、後になって価値が上がっただけです。501XXだって、後で価値が上がることを想定して作られたわけじゃないでしょう？僕にとってポツブアートもそうしたもののひとつ。世の中での価値は変動するんだろうけど、それらに対する僕の価値観は一切変わりません」

自分の価値観を信じてものを選ぶ。それこそが辻本氏の審美眼の真髓なのだ。

# GOOD STUDIES for DAD'S LIFE

## WITNESS

### 証言者 / デビッド・ベンリモンさん(デビッド・ベンリモン・ファインアート代表)

ミスター・ツジシモトは  
ウォーホルを理解している

NYで活躍する有名ギャラリー・オーナーのデビッド・ベンリモンさんに、辻本コレクションについて聞いてみた。ベンリモンさんは、かつてウォーホル本人から直々にフレームを依頼されたことがあったほどのギャラリストである。

「ミスター辻本が所有するアンディ・ウォーホルのシルクスクリーンのコレクションはとても素晴らしいの一言です。ウォーホルのプリント作品をあらゆる時期に渡って膨大に蒐集し、ご自身のお部屋に飾られ

ているようですが、その精神にまづ私は感服します。辻本さんは、ウォーホルの代表的なシリーズである「カウボーイ」「インディアン」「フラワーズ」「マオ」のプリントを所有されています。これらは、ウォーホルのシルクスクリーンの代表作です。このインスタレーションは、辻本さんがコレクションと共存し、交流していることを表しており、事実、お写真を拝見するとそれらの作品が彼の空間に彩りを添え、融合しています。そこが素晴らしいのです」。

ギャラリストの観点から、彼のコレクションにどんな作品を加えたいかを聞いてみた。「ウォーホル作品

に限定し、お勧めするとしたら、1967年のマリリン・モンローのポートフォリオです。この『マリリン・スイート』は、ウォーホルの最初のポートフォリオであり、彼の先駆的なシルクスクリーンの実践の重要な例です。これらの作品には、ウォーホルの特徴的な資質の多くが詰まっています。名声や魅力への執着、シルクスクリーンのプロセスにおける反復、マスメディアへのメッセージ、そしてセレブリティの存在を象徴しています。じつは私が知らないだけで、辻本さんは所有されているかもしれないですね」



photo © Getty Images

ベンリモンさんの経営するNYのギャラリー「David Benrimon Fine Art」。マンハッタンのマディソンアベニュー沿いにある、アールデコ様式を誇るフラールビル内にギャラリーを構える。モダンアート、コンテンポラリーアート、印象派に特化し、アンディ・ウォーホル、ロイ・リキテンシュタインをはじめ、様々な名作を取り揃える。  
<http://davidbenrimon.com>

Profile ● デビッド・ベンリモン / 1956年生まれ、イスラエル出身。デビッド・ベンリモン・ファイン・アートCEO。1977年にNYソーホーでアーティストに額を提供するビジネスをスタート。ポップアートシーンとの密接な関係を築いた

